

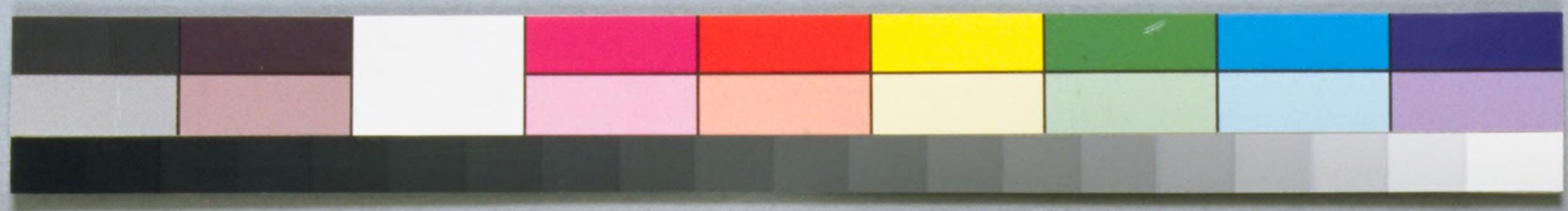
あ
は
ら
の
さ
ね

WB2

かつらかさね 1冊 WB2-1 00-001

国立国会図書館





WB2
1



序
 予為先生夙尚虛無常修澁法戒嘗共
 人曰。昔。果。是。則。大。戲。場。而。萬。物。悉。皆
 狂言綺語也。於是。大唱。獨。狂。樂。其。升。堂
 入室者。又。不。為。少。至。如。四。國。之。夫。之。流
 最為。其。魁。也。是以。海。內。無。不。知。先生。之
 名。其。與。滅。法。戒。者。為。遂。自。刻。印。曰。
 有。如。實。為。故。裁。益。先生。之。於。畫
 又。取。之。畫。虛。言。此。如。捕。無。鼻。子。之。眼



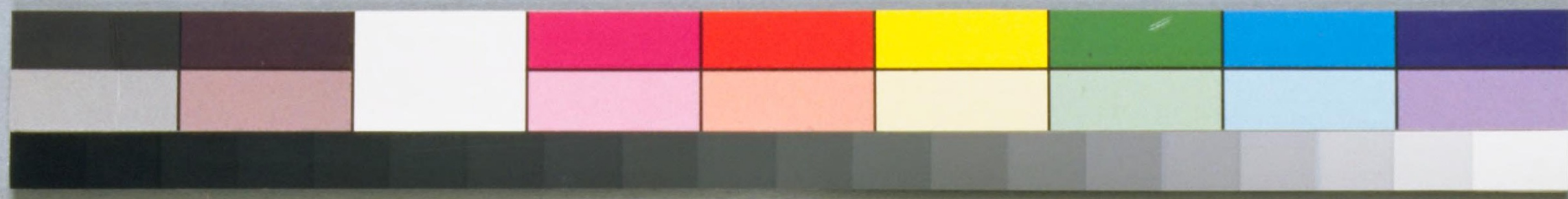
本林山嶺吉

721370

かつらかさね 1冊 WB2-1 00-002

国立国会図書館



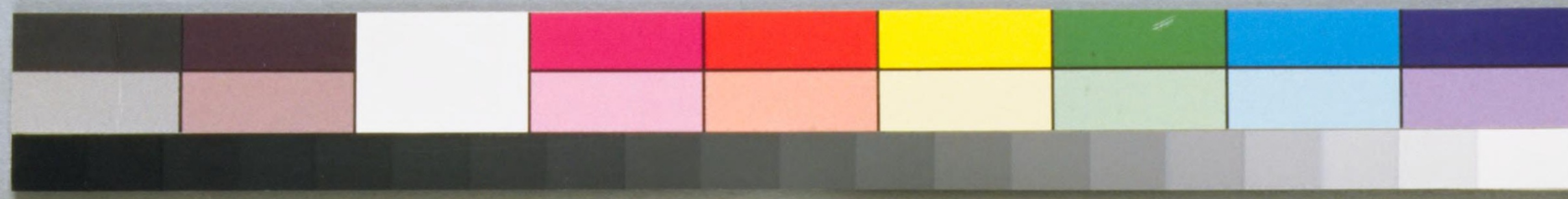


無口無身之人以示愛乎。寫我鸞頭之
 鬢也。三間櫂谷風之足。以四斗樽以示
 滅法戒。是其先生以愛乎。與滅法戒。愛
 乎。其字無一非虛無。與滅法戒矣。嗚呼。
 南堂三實。今也。見亡矣。雖名亡字。其
 虛無。其滅法戒之。所以傳於人者。固以
 畫。亦や。茲書肆某等。刻歲時之圖者。
 梓成。請序余之。往而賢之。見先生之
 筆。而所謂虛乎。氣烈者。也。亦與

先生為愛乎。交於。是。不能。感。終
 識滅法戒。以為。序。于。時。身。和。三。癸
 亥。七月。下院。書。于。櫂。樓。中。

鳥羽江 風來散人撰

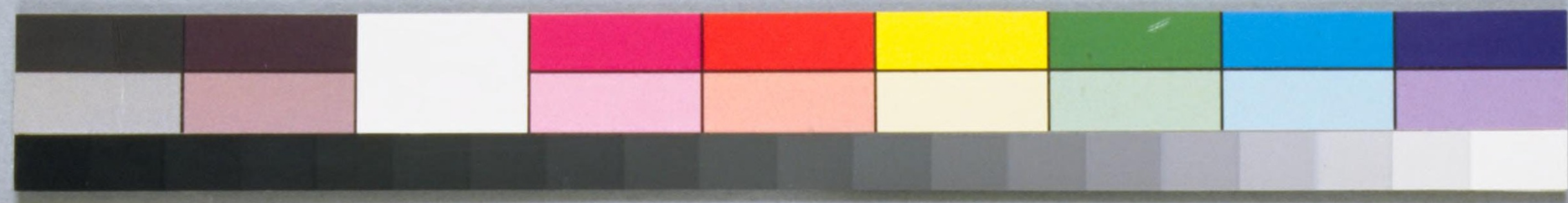


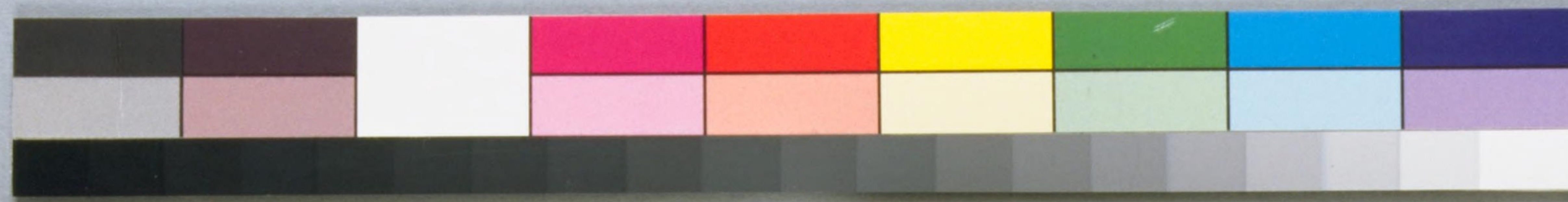


ナヤセシ フタオキ
 笈子蓋置春色碧主賓各異常魁席若水
アラタニニル
 新烹大服茶御銘定識祝之昔
サカサキニ
イワイノムカシ
クワイセキニ
ワカミツ

美真戲題 〇〇



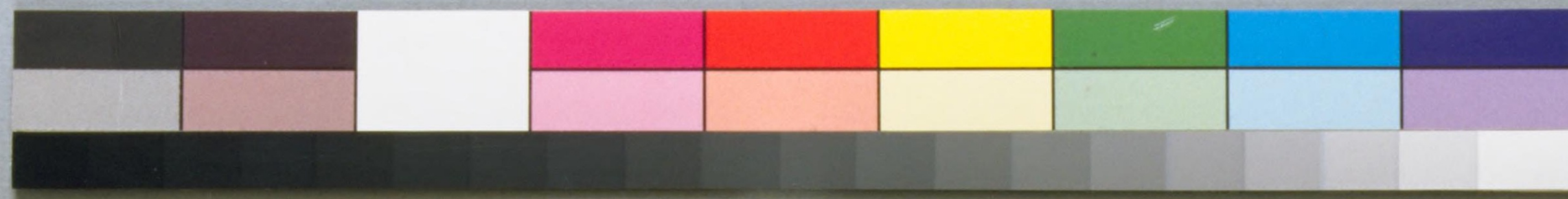




當世の
 二六
 初午
 きつ子
 福
 手に
 握る
 玉の
 ちを
 桃
 求
 の
 園
 栗
 園
 居

(No text on this page)





曲水也
遊とあは
猿了
花のちり

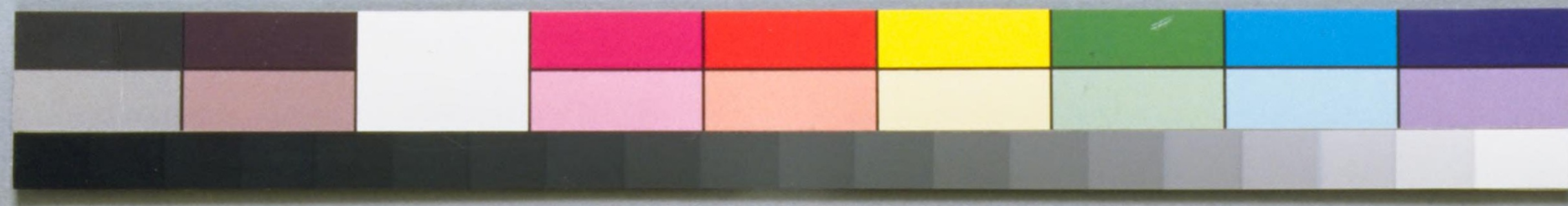


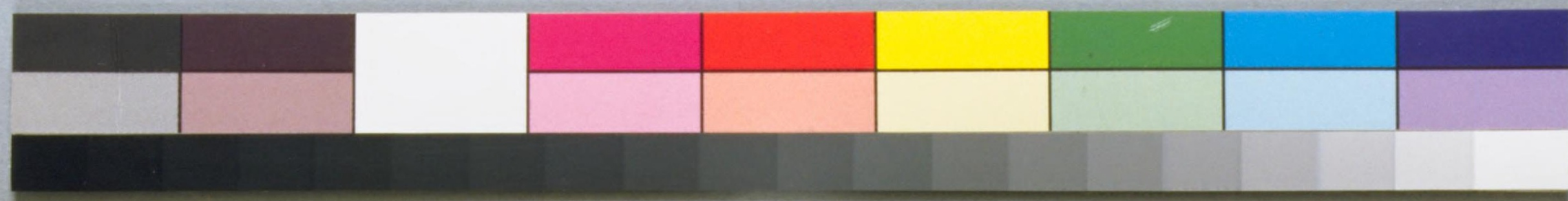


油
縁
赤
し
こ
か
ぬ
も
し
の
り
さ
け
さ
か
さ
か

九







此の書は...
 一ノ...
 二ノ...
 三ノ...
 四ノ...
 五ノ...
 六ノ...
 七ノ...
 八ノ...
 九ノ...
 十ノ...





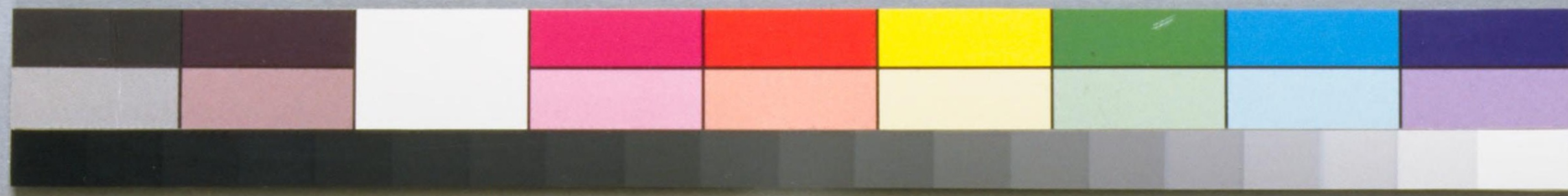
行者の

外月八日山開天。横所八兵世道。儂弱別嘗為天狗撮。
 致谷初蒙大先達。木偏衣裳已變。狀境中彼懸金。
 剛杖今日出。立非故姿。以來休道下山。新客執職進。
 前行小先。以負自後。向小先新客。列本末唱出。以若大善。
 薩以八兵誇業。且從利生。勸懺悔心。洗泥川。作休。
 泥面對愛深。思他志。銅集表已和。歌通。羅拔塔正。少。
 鐘愾藏。五拜來。次第巡。子。勝。子。大。必。非。只。摺。只。
 難運。天。只。三。疑。近。天上。足。摺。苦。痛。時。此。去。難。所。付。家。

思地系。獲。無。牙。等。石。世。本。弓。猿。投。谷。獅。五。尺。體。恐。微。
 塵。疎。五。分。魂。乍。縮。上。危。無。端。八。兵。執。新。客。更。自。明。止。向。
 谷。垂。危。曾。無。生。意。地。心。中。孰。懷。點。私。買。喰。集。錢。自。
 之。廢。讀。書。算。用。從。聖。教。又。母。存。以。勿。偏。子。只。今。艱。難。
 矢。不。遺。若。不。足。河。重。以。體。釣。狗。賓。釣。弓。不。約。真。
 討。彩。又。不。是。長。藏。忠。義。河。堀。涯。投。弓。踏。弓。神。力。
 加。御。山。奇。妙。謹。勿。語。但。道。雲。深。不。去。處。

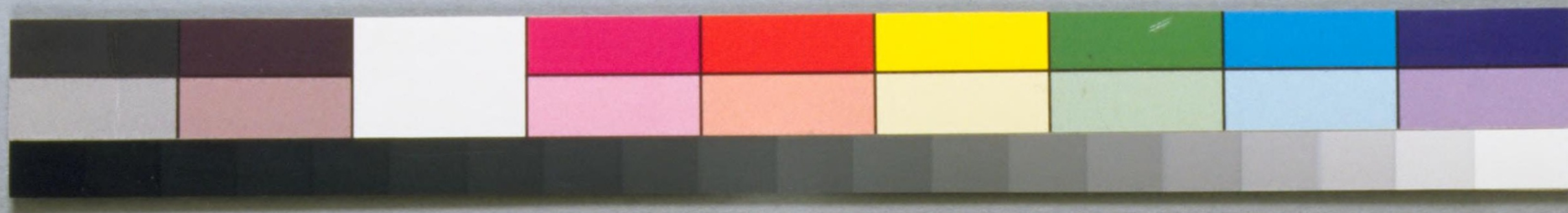
標撰撰主人題





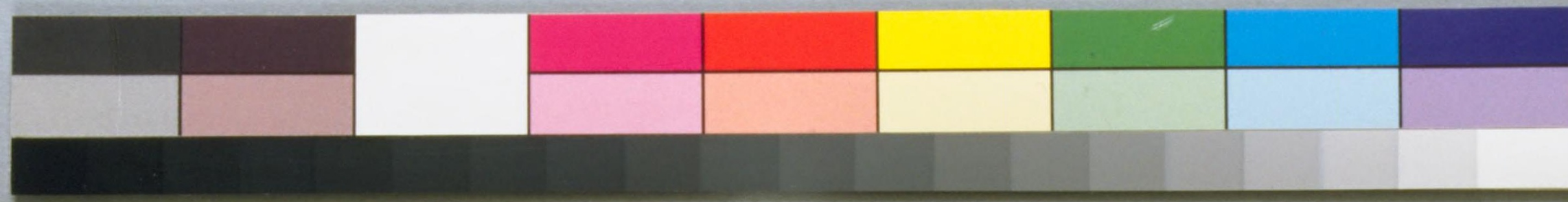
了
たて
あ
れ
ち
ま
ま
い
れ
一
編





十五





相撲もまけぬ
俄のとり紐や

その紐を大事とよをほくしなり

五知舎園丸
丸



昇平洋洽繁庶康時賽社神似禎祥百日之芳一日果戸々踊
人英狂士女絡繹錦繡巷百技奏奇切先少中亦少年賣戲劇
是如門散仔身有火要一宗一咲一浪一更一歌一也一堵一牆一突一様一味一毒一者一胡一術一
肩一後一撥一張一反一張一圓一旋一俯一仰一老一信一狀一多一子一伎一倆一在一乎一皇一皇一以一語一最一奇
極聽得多人笑前挽

五知舎園丸
丸





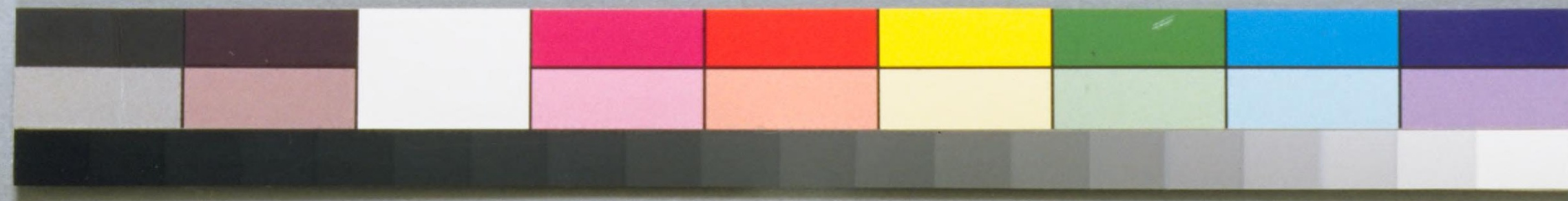
於茂え唯
 硯あはれの
 后に配

室と女



飄乎鬼燈
 勿落勿采
 阿嬢所愛
 閃然短冊
 勿雀勿摺
 阿娘所射
 牽牛題





延永

ちんり
うさ
ちんり



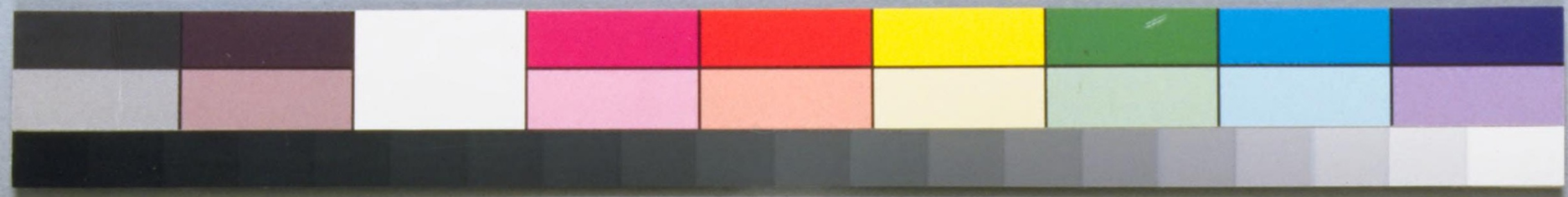
時々れ
色竹柿
あぶら
ちんり
ちんり

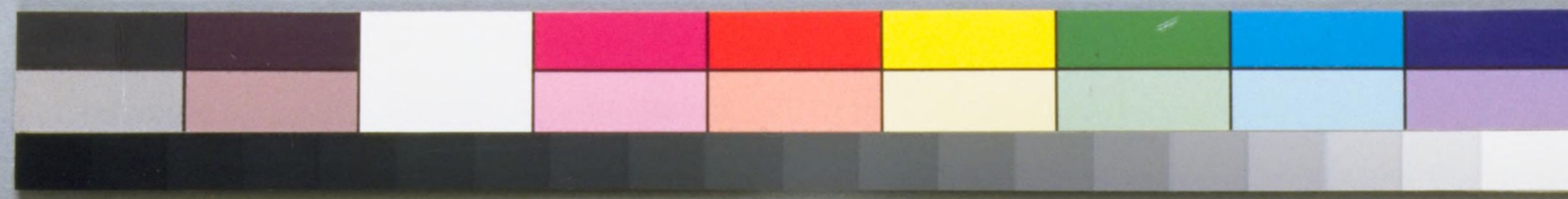


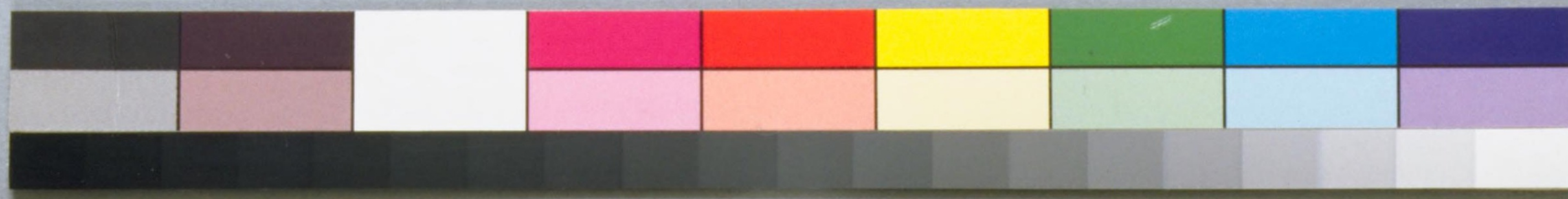


路の幸は初を始り
 五位の御前がまの懸は太
 又の宮のまの懸は太
 叔のたのまの懸は太
 ともいふまの懸は太
 跡人てたのまの懸は太
 少むまの懸は太
 かるる









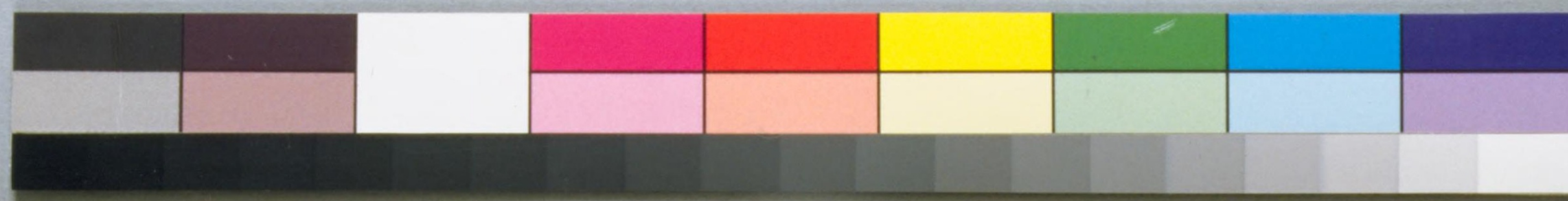
酒歌

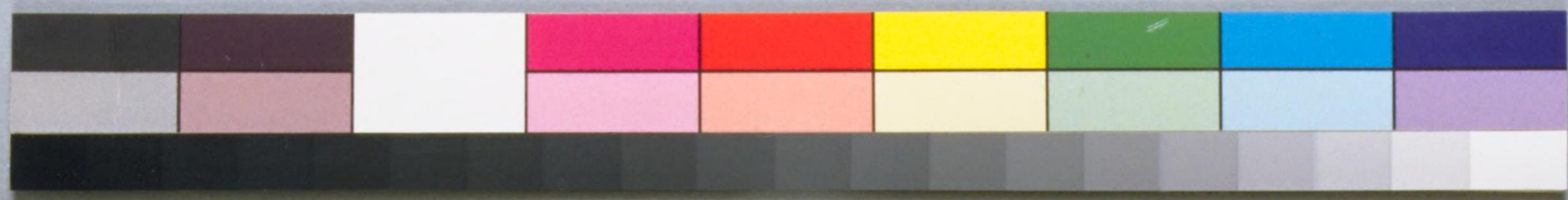
一盃の何と魚をのむ翁乃嘆よあや
流二盃は川難波は乃とあし和ら
て手たふけし久尔角文字はいもを豊
ゆるさあよ二書やいづれかを察て梅葉の
絲こと弦中尔散うと四書巧く打
あふや竹林乃友をけらるる那那の里に

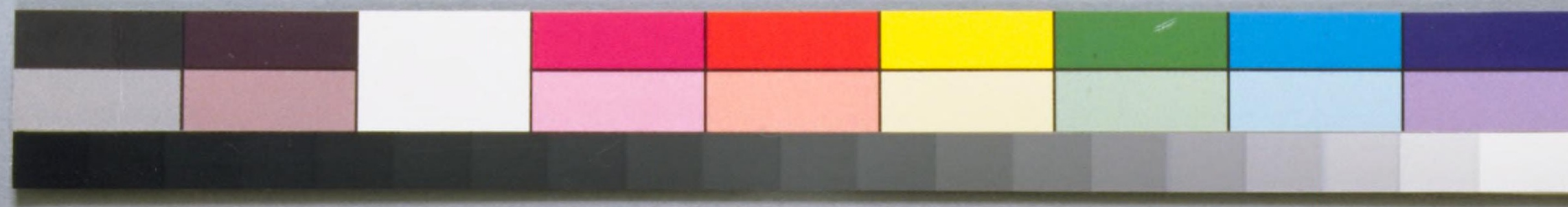
咲る尔以しあ五舌つらり飄然少
天よやのやも仙家りやい半さる舞
五歩に一盃十歩一杯い万とわあよ
こ代よこも美々終て三斗一斗乃
かろあ最上は

角齋 月居









顔見せや

山平小競

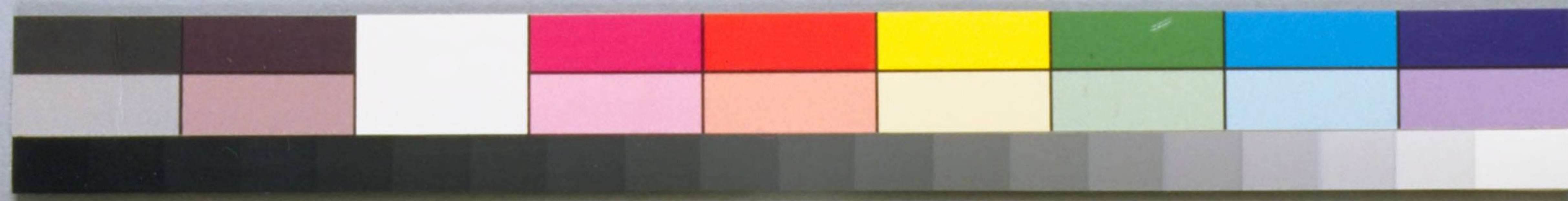
几董

山灰あらし



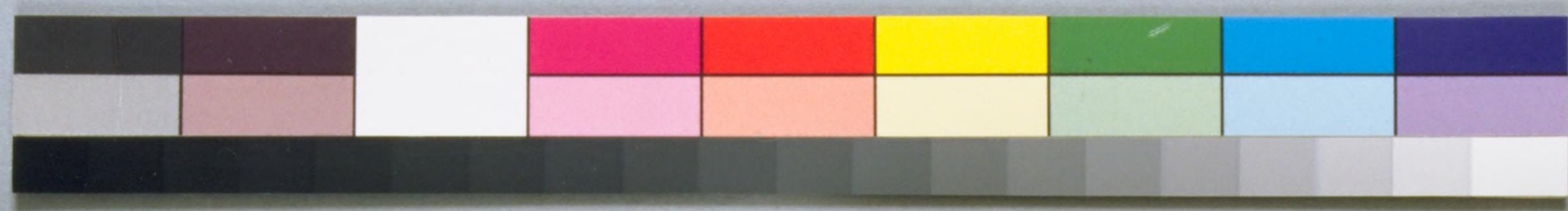
積物如山炭興新
芝居景氣恰疑春
三番叟面年古
大手組顔歳新
木戸讀込揃布子
棧敷賣切聯文茵
幕開近付忍眠啜
牡蛎雑炊焼口頻





何れも母後をよそよそ
 海老ハ浮城にささるか
 餅を巧くしれりたる
 是三國一の舞女一學
 うふれ乃いしあふ





享味三癸亥十月

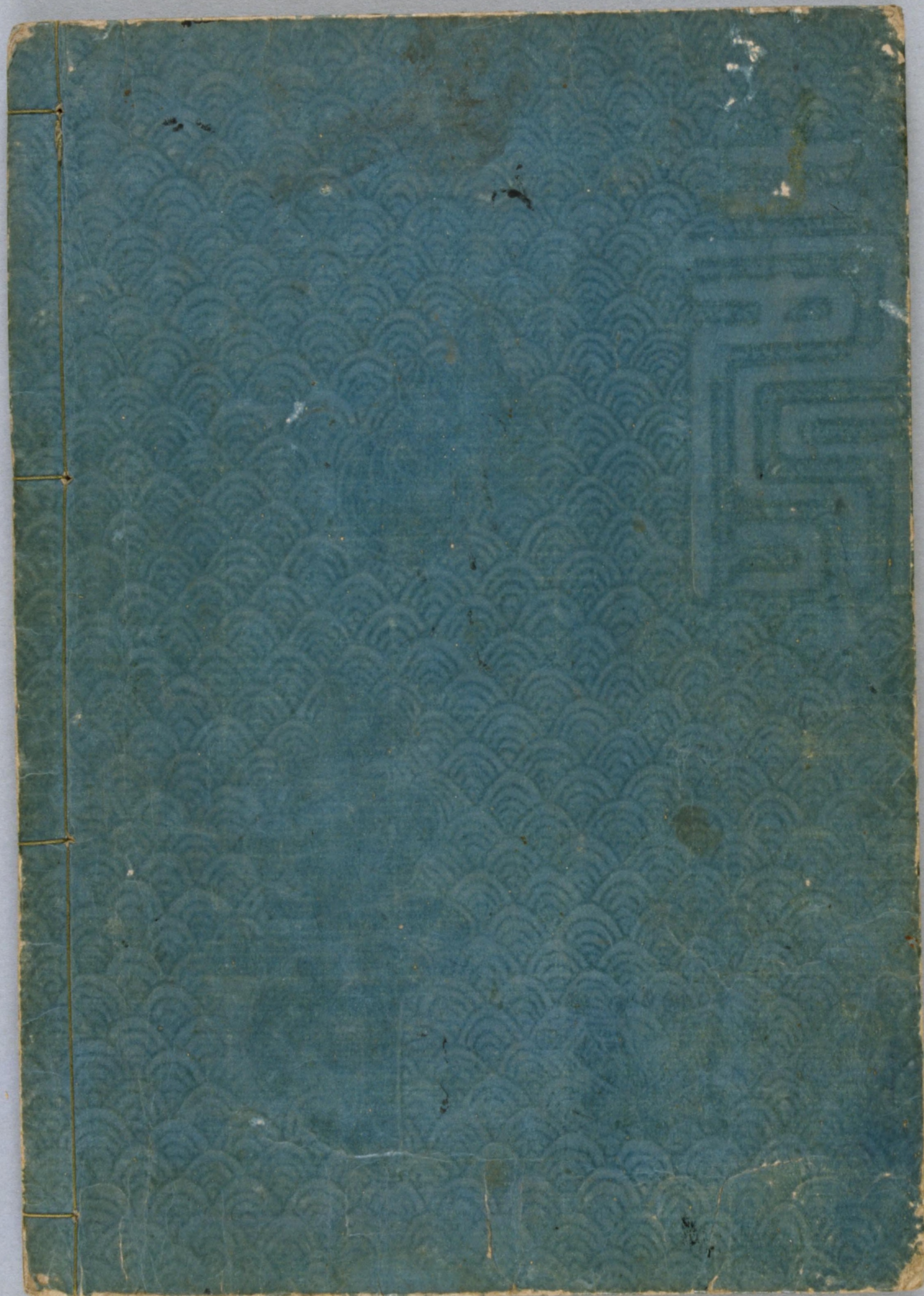
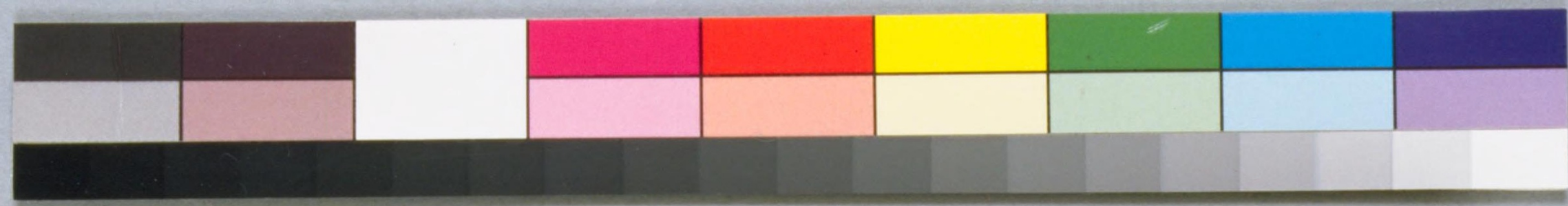
浪華書肆

再考高



河内屋喜兵衛
河内屋宗兵衛
今津屋辰三郎
塩屋忠兵衛





かつらかさね 1冊 WB2-1 00-035

国立国会図書館

